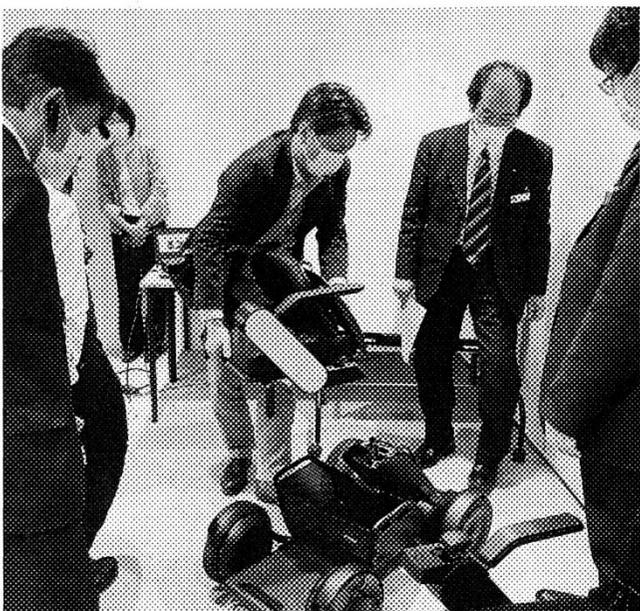


電動車いす操作習得で連携

日交とWHILL 今月以降 勉強会

プレ勉強会の様子。ウィル社のスタッフから、折り畳み方や分解方法を学んだ（1月18日、品川区）



日本交通（東京・千代田区、若林泰治社長）は次世代電動車いすを開発・販売するWHILL（ウィル、品川区、杉江理社長）と提

携し、高齢者・障害者の送迎を担う「エキスパート・ドライバー・サービス（EDS）」のタクシー乗務員向けに勉強会を今月以降、

開催する。次世代電動車いす「WHILL」の取り扱い方法や分解・組み立て、折り畳み方のほか、乗車時の安全性の確認や、乗客に座席に移ってもらう際の留意点などを学ぶ。

車いすのウィルは近距離移動のパーソナルモビリティ（1人乗り用）として近年、利用が増えている。一般的な車いすとは折り畳み方法が異なり、乗務員間であまり知られていないことが課題に挙がっている。ウィル社は乗務員からのヒアリングの結果を製品開発に生かす。

EDSのうち、介護部門の「サポートタクシー」乗務員が担う。昨年末で81人。本格提携に先立つ1月18日、ウィルの本社にユニバーサルデザイン仕様のトヨタ「JPN TAXI」が持ち込まれ、サポートタクシーのリーダー乗務員が勉強会を先行体験した。